
学生のための
















アカデミック情報リテラシー















.....





練習問題標準解答

(Version2007 用)

Word 練習問題

1. 省略
2. 1) [ページレイアウト] タブの [ページ設定] の  (ページ設定) をクリック
2) 【ページ設定】ダイアログボックスが表示されるので、[文字数と行数] タブの [フォントの設定(F)] をクリック
3) 【フォント】ダイアログボックスが表示されるので、[フォント] タブの [サイズ(S)] から “11” を選び、[OK] をクリック
4) 【ページ設定】ダイアログボックスに戻るので、[文字数と行数の指定] から “文字数と行数を指定する(H)”、[文字数(E)] から “42”、[行数(R)] から “40” を選び、[OK] をクリック
3. 6 行目の行頭にカーソルを表示して、[Ctrl] キー + [Enter] キーを押す
4. 1 ページ目 1 行目にカーソルを表示して、[ホーム] タブの  (文字列を右に揃える) をクリック
5. 2 行目の行頭にカーソルを表示して、[Enter] キーを 2 回押す
6. 5 行目の行頭にカーソルを表示して、[Enter] キーを 10 回押す
7. 1) 15 行目から 16 行目を範囲指定して、[ホーム] タブの MS 明朝 (本(フォント) から “MS ゴシック” を選ぶ
2) [ホーム] タブの  (中央揃え) をクリック
8. 1) 15 行目を範囲指定して、[ホーム] タブの  (フォントサイズ) から “24” を選ぶ
2) 16 行目を範囲指定して、[ホーム] タブの  (フォントサイズ) から “16” を選ぶ
9. 2 行目の行頭にカーソルを表示して、[Enter] キーを 5 回押す
10. 1) 22 行目を範囲指定して、[ホーム] タブの  (フォントサイズ) から “14” を選ぶ
2) [ホーム] タブの  (文字列を右に揃える) をクリック
11. 1) [挿入] タブの  (フッター) をクリックして、<フッターの編集(E)> を選ぶ
2) フッターにカーソルが表示されるので、[デザイン] タブの  (ページ番号) をクリックして、<ページの下部(B)> の “番号のみ 2” を選ぶ
3) 1 ページ目のフッターにページ番号が表示されたことを確認して、[デザイン] タブの [先頭ページのみ別指定] チェックボックスをオンにする
4) [デザイン] タブの  (ページ番号) をクリックして、<ページ番号の書式設定(F)> を選ぶ
5) 【ページ番号の書式】ダイアログボックスが表示されるので、[番号書式(F)] から “- 1 -
- 2 -、- 3 -”、[連続番号] から “開始番号(A)”、右から 「0」を選んで、[OK] をクリック
6) [デザイン] タブの  (ヘッダーとフッターを閉じる) をクリック
12. 1) 2 ページ目 1 行目 (1. はじめに) を範囲指定して、[ホーム] タブの  (フォントサイズ) から “12” を選ぶ
2)  (太字) をクリック
13. 1) 2 ページ目 11 行目 (2. 五教科と諸学部) を範囲指定して、[ホーム] タブの  (フォントサイズ) から “12” を選ぶ
2)  (太字) をクリック
3) 同様に、2 ページ目 32 行目 (3. 実学的視点)、3 ページ目 14 行目 (4. 特異点としての社会科) も、フォントサイズを「12」にして、太字にする

- 14.1) 2 ページ目 2 行目から 10 行目を範囲指定して、[ホーム] タブの [段落] の  (段落) をクリック
- 2) 【段落】ダイアログボックスが表示されるので、[最初の行(S)] から“字下げ”、[幅(Y)] から“1 字”を選び、[OK] をクリック
- 3) 同様に、2 ページ目 12 行目から 31 行目、2 ページ目 33 行目から 3 ページ目 13 行目、3 ページ目 15 行目から 4 ページ目 6 行目を字下げする
- 15.1) 2 ページ目 26 行目の行末（・・・一部を占めるに過ぎない。）にカーソルを表示して、[Enter] キーを押す
- 2) 「表 1 大学学部の関係分野別学生の構成 (H15 年度)」と入力して、[Enter] キーを押す
- 3) [挿入] タブの  (表) をクリックして、3 行×10 列分ドラッグ
- 4) 表内に文字を入力
- 5) すべての列を範囲指定し、列の境界線にマウスポインタを合わせてダブルクリック
- 6) 31 行目 (表の下の方) にカーソルを表示して、「※割合は小数点第二位を四捨五入」(改行) 「(出典: 文部科学省『データから見る日本の教育 2004』64 ページ)」と入力
- 7) 27 行目 (表のタイトル) にカーソルを表示して、[ホーム] タブの  (中央揃え) をクリック
- 8) 31 行目から 32 行目 (「※割合は…」と「(出典: 文部科学省…)」) を範囲指定して、[ホーム] タブの  (フォントサイズ) から“8”を選ぶ
- 9) [ホーム] タブの  (文字列を右に揃える) をクリック
- 16.1) 2 ページ目 37 行目の行末（・・・ことが分かる。）にカーソルを表示して、[Enter] キーを押す
- 2) 「表 2 中学三年間の五教科標準授業時数 (H15 年度)」と入力して、[Enter] キーを押す
- 3) [挿入] タブの  (表) をクリックして、3 行×6 列分ドラッグ
- 4) 表内に文字を入力
- 5) すべての列を範囲指定し、列の境界線にマウスポインタを合わせてダブルクリック
- 6) 3 ページ目 3 行目 (表の下の方) にカーソルを表示して、「※割合は小数点第二位を四捨五入」(改行) 「(出典: 文部科学省『データから見る日本の教育 2004』71 ページ)」と入力
- 7) 2 ページ目 38 行目 (表のタイトル) にカーソルを表示して、[ホーム] タブの  (中央揃え) をクリック
- 8) 3 ページ目 3 行目から 4 行目 (「※割合は…」と「(出典: 文部科学省…)」) を範囲指定して、[ホーム] タブの  (フォントサイズ) から“8”を選ぶ
- 9) [ホーム] タブの  (文字列を右に揃える) をクリック
- 17.1) 文書末にカーソルを表示して、参考文献を入力
- 2) 4 ページ目 20 行目 (【参考文献】) を範囲指定して、[ホーム] タブの  (フォントサイズ) から“12”を選ぶ
- 3)  (太字) をクリック
- 4) 21 行目から 22 行目を範囲指定して、[ホーム] タブの  (インデントを増やす) を 2 回クリック
- 18.1) 2 ページ目 14 行目の「同様に、英語は英語学に対応するであろうし」にカーソルを表示して、[参考資料] タブの  文末脚注の挿入 (文末脚注の挿入) をクリック
- 2) 文末脚注が表示されるので、「英文学に関して言えば、高等学校までの英語という教科は国語に比して極端に文学的要素が少ないように思われるが、たとえ英文学を含むとしても、本論に大きな影響は及ぼさないと見込まれる。」と入力
- 3) 入力した文字列を範囲指定して、[ホーム] タブの  (フォントサイズ) から“9”を選ぶ

- 19.1) 3 ページ目 7 行目の「ニューメラシー」にカーソルを表示して、[参考資料] タブの  文端脚注の挿入 (文末脚注の挿入) をクリック
- 2) 文末脚注が表示されるので、「numeracy。計算能力のこと。」と入力
- 3) 入力した文字列を範囲指定して、[ホーム] タブの  (フォントサイズ) から“9”を選ぶ
- 20.1) 4 ページ目 8 行目の「・・・非日常の世界で使われるものである」にカーソルを表示して、[参考資料] タブの  文端脚注の挿入 (文末脚注の挿入) をクリック
- 2) 文末脚注が表示されるので、「裁判員制度は 2009 年より実施された。」と入力
- 3) 入力した文字列を範囲指定して、[ホーム] タブの  (フォントサイズ) から“9”を選ぶ
- 21.2 ページ目 2 行目の行頭にカーソルを表示して、[Enter] キーを押す
- 22.1) 2 ページ目 11 行目の行末 (「2. 五教科と諸学部」の前の行) にカーソルを表示して、[Enter] キーを押す
- 2) 2 ページ目 13 行目の行頭 (「2. 五教科と諸学部」の次の行) にカーソルを表示して、[Enter] キーを押す
- 3) 3 ページ目 7 行目の行頭 (3. 実学的視点) にカーソルを表示して、[Enter] キーを押す
- 4) 3 ページ目 9 行目の行頭 (「3. 実学的視点」の次の行) にカーソルを表示して、[Enter] キーを押す
- 5) 3 ページ目 30 行目の行末 (「4. 特異点としての社会科」の前の行) にカーソルを表示して、[Enter] キーを押す
- 6) 3 ページ目 33 行目の行頭 (「4. 特異点としての社会科」の次の行) にカーソルを表示して、[Enter] キーを押す
- 7) 4 ページ目 25 行目の行末 (「【参考文献】」の前の行) にカーソルを表示して、[Enter] キーを押す
- 8) 4 ページ目 28 行目の行頭 (「【参考文献】」の前の行) にカーソルを表示して、[Enter] キーを押す
- 23.1) 2 ページ目 29 行目の行末 (「表 1・・・」の前の行) にカーソルを表示して、[Enter] キーを押す
- 2) 2 ページ目 37 行目の行頭 ((出典：文部科学省…) の次の行) にカーソルを表示して、[Enter] キーを押す
- 24.3 ページ目 2 行目の行末 (「表 2・・・」の前の行) にカーソルを表示して、[Enter] キーを押す
- 25.省略

20XX 年 X 月 X 日

火曜 3 限「教育・文化・社会」レポート

五教科を教える意義

— 社会科をめぐる考察 —

社会経済学部 2 年 6120 成田 智城

改ページ

1. はじめに

教育の意義について、今日無数の議論がなされている。学歴社会・偏差値主義・知識偏重教育の批判から始まり、文部科学省の「ゆとり教育」政策とその反動、「考える」教育と百マス計算、教養教育とプラグマティックな教育など、40年ほど前からなされてきた議論が今なお色褪せないのは、それだけ教育が私たちにとって身近で切実な問題であることの現れであろう。ところで、初等・中等教育と高等教育とでは、学ぶ分野が専門的になるか否かで一線が画され、その学ぶ意義というものが異なっているように思われる。そこで本レポートでは、大学学部の関係分野と中等教育までに教えられる教科（主に五教科）との関係を、データから見出すことを端緒として、初等・中等教育を学ぶ意義について考えてみる。なおこの議論においては、便宜的に各教科・学問のディシプリンを明確に分けられるものとする。

2. 五教科と諸学部

まず大学で学ばれる諸学問と五教科を比べて、学問の対象とする分野とそれに対応する教科を考える。例えば、国語に対応するのは、(国)文学、言語学などであろう。算数・数学に対応するのは、数学、情報関係の諸学である。同様に、英語は英語学に対応するであろうし、社会科学は、社会科学全般と歴史・地理・宗教・倫理・哲学と、実に広範な分野と重なっている。理科は農・工・薬・医・歯・理学の諸学問と対応するといえるだろう。

さて、教科の授業時間数の割合と大学学部別の進学人数の割合とを比べてみよう(表1)。平成15年度には、先述したような社会科学の対応する学問、つまり社会科学及び人文科学の一部に進学した学生の割合は、社会科学が39.0%であり、また人文科学の全体が16.3%で、そのうち宗教・倫理・哲学は社会科学に含むこととしたので、少なく見積もっても40%を超えると推測される。また、理科の場合は農・工・薬・医・歯・理学を全て足して、30%ほどと考えられる。これらの理系の学問のうち、数学という教科の内容が理学における数学と工学における情報工学に直接関わることを考慮しても、社会科学と理科に関係する学問分野に進む学生は、平成15年度のデータから見ると、およそ三分の二を占めるのである。これに対し英数国の場合は、その対象とする分野(国文学・言語学・英語学・数学・情報関係)に進む学生は2割にも満たないであろう。英・国・数学はそれぞれ人文科学・自然科学の一部を占めるに過ぎない。

表1□大学学部の関係分野別学生の構成(H15年度)

分野	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	医・歯学・薬学	家政学	教育学	その他
人数(人)	409,571	979,660	88,230	446,966	69,447	103,819	53,071	137,261	221,349
割合(%)	16.3	39.0	3.5	17.8	2.8	4.1	2.1	5.5	8.8

※割合は小数点第二位を四捨五入。

(出典：文部科学省『データから見る日本の教育2004』64ページ)

しかし、五教科の授業数の割合は、中学校ではそれぞれ20%前後と大差がない(表2)。つまり学生の学ぶ教科授業数と進学先の間には、特筆すべき相関関係はないのである。もちろん設けられている各学部・学科の数が進学割合を大きく左右するであろうが、それを考慮から外

したとしても、英数国は少なくとも高等教育で学ぶ内容を踏まえて学ばれる教科とは言えないことが分かる。

表 2□ 中学三年間の五教科標準授業時数 (H15 年度)

教科	国語	社会	数学	理科	外国語
授業時間 (時間)	35.0	29.5	31.5	29.0	31.5
割合 (%)	23.9	20.1	21.5	19.8	21.5

※割合は小数点第二位を四捨五入。

(出典：文部科学省『データから見る日本の教育 2004』71 ページ)

3. 実学的視点

では英数国といった科目は、学ばれる上で何を射程としているのか。それは、言うまでもなく実生活に必要な不可欠なリテラシーとニューメラシーの体得である。2つの能力の重要性はここで改めて述べるまでもないので割愛するが、この議論において注意すべきは実学的視点である。いわゆる社会に出てゆくために必要な能力を生徒に教えるという考え方である。

ここで数学について補足をする。ニューメラシーは確かに社会的な営みの上で必要だが、それを目的とするだけならば、小学校の算数のレベルでも十分といえは十分だ。では、中学校で算数が数学になった場合、そこにはニューメラシー以上の何が加わるというのか。数学と算数の間で異なる特色は、方程式に代表される文字（代数）の使用と証明であると考えられる。生徒は、文字の使用により抽象的な概念の操り方を、証明により論理の組み立て方を学ぶのではないだろうか。つまり、数学はより高度なリテラシーを学ぶためのツールとして（も）学ばれていると解釈できるのである。英数国が受験の主要な三教科とされるのも、試験でこの能力がどれだけ備わっているかを見るためであろう。

しかし実学という視点から教育を捉えた時、それが英数国に留まらなくなるということを看過すべきではない。理科は実学の最たる例であり、専門学校や大学では技術を考案したり使用したりすることを目的とする学問という色彩が強い。実学から最も隔たっている理系の学問は、自然の諸現象あるいは全体像を明らかにしようとする理学であるが、そこで判明した知識・原理などは結果として様々な産業の技術に応用されてゆく。専門学科制をとっている高校を見ても、その学科のほとんどが理論志向のものではなく実学で、しかも工業・農業・水産・情報といった理料系の科目を採用しているところが多いことが分かるだろう。こうした実業高校、あるいは大学や専門学校などで、理科は応用技術の学究へと収斂してゆく傾向にあり、その前段階として、初等・中等教育の理科では基礎知識が学ばれると考えられる。

4. 特異点としての社会科

もちろんここまで挙げた4つの科目が、プラグマティックなことしか念頭に置かれずに教えられているわけではないが、そこでは実用的な傾向がかなり強い。しかしここで社会科という最後の教科に目を転じた時に、その実に奇妙な実態が浮かび上がってくる。

一つ目は、ゆとり教育で問題にされることがない唯一の教科であることだ。国語は漢字が減

る、英語は単語が減る、算数は円周率が 3 になる、理科は月の満ち欠けを小学校で教えない、などと大騒ぎしているのに、社会科では、昔から近現代史を適当に教えることは暗黙の了解と化していて、ゆとり教育でも何ら話題にされることがない。

二つ目は、大学受験において、理系の学科で理科を受験科目として課さないところは少ないのに、社会科学系の学科で社会を課さないところは結構頻繁に見られることである。

三つ目は、社会科に關係する学問は歴史学と地理学を除けばほとんど公民という教科に集約されるはずなのに、公民系の科目は歴史・地理などと比べ特に高等学校において割かれる授業時間が少ないことである。大学受験においても公民系の科目はセンター試験に見られる程度で、二次試験で課している学部は少数である。

このように、社会科はどことなく疎外感のある教科といえる。また、最初の方で中等教育までの社会科と社会科学系の学問・宗教・倫理・哲学との関係を匂わせたが、関係はあるものの、その結びつきはそれほど強くなさそうである。

前者に関しては、世間には社会的知識は有用でないもの、趣味・雑学に近いものと思われる節があることを指摘しよう。クイズ番組で歴史の問題や世界の都市が答えになる問題が出るのはそれをよく示していると思われる。確かに歴史・地理・哲学などの知識はなくても生きてゆくことはでき、法などの知識も一般市民にとっては裁判など非日常の世界で使われるものである。

一方で社会科教育に関しては、政治参加や愛国心などを持ち出して何とか実学的な説明を付けようと試みることもできるが、前者は現代日本では関心がなくても問題はなく、後者に至っては非常に曖昧な概念であり、それをういたところでうまく説明できるようなとは思えない。人文科学・社会科学は人間・社会のあくなき追究をしているため、実学的な性質をあまり持たない。そして、歴史的・地理的知識は社会分析のために不可欠なものである。それを追究したところで、実生活に直接影響を及ぼすことはあまりなく、むしろその追究の先に待つのは知りたくもないことかもしれない。だが、自分は何者か、自分はどのような世界で生きているのか、自分と世界はどのような関係にあるのかを知らなければ、普通の人はどのように行動するにしてもむしろ地盤が揺らいで不安定になってしまうのではないか。自らと、自らを取り巻く社会について理解させ、安定した足場を各々に築かせることが、社会科教育の意義と言えるのではないだろうか。

【参考文献】

近藤□伊佐美□『私の教育論——受験偏重教育を超えて』、角川書店、1999。





土方□敏蔵□『ゆとり教育の幻想』、石破書店、2004。
















英文学に関しては、高等学校までの英語という教科は国語に比して極端に文学的要素が少ないように思われるがたとえ英文学を含むとしても、本論に大きな影響は及ぼさないと見込まれる。

numeraçy。計算能力のこと。

裁判員制度は 2009 年より実施された。

Excel 練習問題

1. 省略
2.
 - 1) L6 をアクティブにして、[ホーム] タブの Σ (合計) から <平均(A)> を選ぶ
 - 2) [Enter] キーを押す
 - 3) L6 をアクティブにし、フィルハンドルをポイントして、マウスポインタを **+** にし、L23 までドラッグ
3.
 - 1) M6 をアクティブにして、 (関数の挿入) をクリック
 - 2) 【関数の挿入】ダイアログボックスが表示されるので、[関数の分類(C)] から“論理”、[関数名(N)] から“IF”を選び、[OK] をクリック
 - 3) 【関数の引数】ダイアログボックスが表示されるので、[論理式] にカーソルが表示されていることを確認し、C6 をクリックして、「<=2」と入力
 - 4) [真の場合] にカーソルを表示して N3 をクリックし、[F4] キーを押す
 - 5) [偽の場合] にカーソルを表示し、「0」と入力して、[OK] をクリック
 - 6) M6 をアクティブにし、フィルハンドルをポイントして、マウスポインタを **+** にし、M23 までドラッグ
4.
 - 1) N6 をアクティブにして、「=」と入力
 - 2) L6 をクリックし、「-」と入力
 - 3) M6 をクリックして、[Enter] キーを押す
 - 4) N6 をアクティブにし、フィルハンドルをポイントして、マウスポインタを **+** にし、N23 までドラッグ
5.
 - 1) B6 をアクティブにして、 (関数の挿入) をクリック
 - 2) 【関数の挿入】ダイアログボックスが表示されるので、[関数の分類(C)] から“統計”、[関数名(N)] から“RANK”を選び、[OK] をクリック
 - 3) 【関数の引数】ダイアログボックスが表示されるので、[数値] にカーソルが表示されていることを確認して、N6 をクリック
 - 4) [参照] にカーソルを表示して、N6 から N23 をドラッグし、[F4] キーを押す
 - 5) [順序] にカーソルを表示し、「1」と入力して、[OK] をクリック
 - 6) B6 をアクティブにし、フィルハンドルをポイントして、マウスポインタを **+** にし、B23 までドラッグ
6.
 - 1) F27 をアクティブにして、 (関数の挿入) をクリック
 - 2) 【関数の挿入】ダイアログボックスが表示されるので、[関数の分類(C)] から“統計”、[関数名(N)] から“COUNTIF”を選び、[OK] をクリック
 - 3) 【関数の引数】ダイアログボックスが表示されるので、[範囲] にカーソルが表示されていることを確認して、C6 から C23 をドラッグし、[F4] キーを押す
 - 4) [検索条件] にカーソルを表示し、E27 をクリックして、[OK] をクリック
 - 5) F27 をアクティブにし、フィルハンドルをポイントして、マウスポインタを **+** にし、F30 までドラッグ
7.
 - 1) G27 をアクティブにして、 (関数の挿入) をクリック
 - 2) 【関数の挿入】ダイアログボックスが表示されるので、[関数の分類(C)] から“数学/三角”、[関数名(N)] から“SUMIF”を選び、[OK] をクリック
 - 3) 【関数の引数】ダイアログボックスが表示されるので、[範囲] にカーソルが表示されていることを確認して、C6 から C23 をドラッグし、[F4] キーを押す
 - 4) [検索条件] にカーソルを表示して、E27 をクリック
 - 5) [合計範囲] にカーソルを表示して、N6 から N23 をドラッグし、[F4] キーを押して、[OK] をクリック

- 6) G27 をアクティブにし、フィルハンドルをポイントして、マウスポインタを \oplus にし、G30 までドラッグ
8. 1) H27 をアクティブにし、「=」と入力して G27 をクリックし、「/」と入力して F27 をクリックし、[Enter] キーを押す
2) H27 をアクティブにし、フィルハンドルをポイントして、マウスポインタを \oplus にし、H30 までドラッグ
9. L6 から L23、N6 から N23、G27 から H30 を範囲指定して、[ホーム] タブの  (小数点以下の表示桁数を減らす) を 3 回クリック
- 10.1) B1 から N1 を範囲指定して、[ホーム] タブの  (セルを結合して中央揃え) をクリック
2) B1 をアクティブにして、[ホーム] タブの  (フォントサイズ) から“18”を選ぶ
3) [ホーム] タブの  (フォントの色) から“赤、アクセント 2”を選ぶ
4) E25 から H25 を範囲指定して、[ホーム] タブの  (セルを結合して中央揃え) をクリック
5) E25 をアクティブにして、[ホーム] タブの  (フォントサイズ) から“18”を選ぶ
6) [ホーム] タブの  (フォントの色) から“赤、アクセント 2”を選ぶ
11. L3 から M3 を範囲指定して、[ホーム] タブの  (セルを結合して中央揃え) をクリック
12. B5 から N5、C6 から C23、E6 から E23、E26 から H26、E27 から E30 を範囲指定して、[ホーム] タブの  (中央揃え) をクリック
13. B5 から N5、E26 から H26 を範囲指定して、[ホーム] タブの  (塗りつぶしの色) から“オレンジ、アクセント 6、白+基本色 80%”を選ぶ
- 14.1) B5 から N23 を範囲指定して、[ホーム] タブの  (下罫線) から“格子(A)”を選ぶ
2) [ホーム] タブの  (格子) から“外枠太罫線(T)”を選ぶ
3) E26 から H30 を範囲指定して、[ホーム] タブの  (外枠太罫線) から“格子(A)”を選ぶ
4) [ホーム] タブの  (格子) から“外枠太罫線(T)”を選ぶ
5) L3 から N3 を範囲指定して、[ホーム] タブの  (外枠太罫線) から“格子(A)”を選ぶ






	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
1														
2														
3														
4														
5														
6														
7														
8														
9														
10														
11														
12														
13														
14														
15														
16														
17														
18														
19														
20														
21														
22														
23														
24														
25														
26														
27														
28														
29														
30														

ゴルフ大会スコア表

順位	学年	氏名	性別	4月大会	5月大会	6月大会	7月大会	8月大会	9月大会	アベレージ	ハンデ	スコア
10	2	浅木 孝也	男	106	107	109	102	105	100	104.8	15	89.8
2	1	香川 葉子	女	90	88	84	85	85	84	86.0	15	71.0
8	3	木田 篤樹	男	89	93	75	84	79	82	83.7	0	83.7
10	3	京極 誠二	男	93	91	87	93	95	80	89.8	0	89.8
15	1	倉田 哲志	男	108	113	112	115	102	103	108.8	15	93.8
12	1	甲本 尚子	女	110	99	98	108	108	107	106.0	15	90.0
1	2	沢村 遼平	男	72	71	80	76	80	85	77.3	15	62.3
13	4	庄村 尚哉	男	94	96	94	83	97	85	91.5	0	91.5
18	3	白石 絵梨	女	101	93	103	107	107	100	101.8	0	101.8
4	2	進藤 歩	男	98	88	81	94	87	92	90.0	15	75.0
14	1	副嶋 瑞穂	女	109	106	112	102	104	109	107.0	15	92.0
5	4	田村 康平	男	80	74	75	90	86	73	79.7	0	79.7
16	3	寺嶋 悟郎	男	103	82	90	92	95	105	94.5	0	94.5
3	2	東堂 猛	男	80	90	95	85	86	85	86.8	15	71.8
6	1	根岸 晴夫	男	95	95	96	96	95	94	95.2	15	80.2
17	1	美河 加世	女	114	119	106	108	105	108	110.0	15	95.0
7	1	道家 章	男	101	99	97	94	95	97	97.2	15	82.2
9	3	山口 理美	女	88	87	92	90	84	79	86.7	0	86.7

学年別成績表

学年	人数	スコア 合計	スコア 平均
1	7	604.2	86.3
2	4	299.0	74.8
3	5	456.5	91.3
4	2	171.2	85.6

15. シート『Sheet1』のシート見出しを、[Ctrl] キーを押しながら、シート『Sheet1』とシート『Sheet2』の間にドラッグ
- 16.1) シート『Sheet1』のシート見出しを右クリックし、ショートカットメニューから<名前の変更(R)>を選ぶ
- 2) シート見出しの文字が反転するので、「スコア表」と入力して、[Enter] キーを押す
- 3) シート『Sheet1(2)』のシート見出しを右クリックし、ショートカットメニューから<名前の変更(R)>を選ぶ
- 4) シート見出しの文字が反転するので、「グラフ」と入力して、[Enter] キーを押す
- 17.1) シート『Sheet2』のシート見出しを右クリックし、ショートカットメニューから<削除(D)>を選ぶ
- 2) シート『Sheet3』のシート見出しを右クリックし、ショートカットメニューから<削除(D)>を選ぶ
- 18.1) シート『グラフ』の B5 から N23 を範囲指定して、[データ] タブの  (並べ替え) をクリック
- 2) 【並べ替え】ダイアログボックスが表示されるので、[最優先されるキー] から“順位”、[順序] から“昇順”を選び、[レベルの追加(A)] をクリック
- 3) [次に優先されるキー] から“学年”、[順序] から“昇順”を選び、[OK] をクリック
- 19.1) D5 から D10、F5 から K10 を範囲指定して、[挿入] タブの  (折れ線) から“マーカー付き折れ線”を選ぶ
- 2) グラフエリアをポイントし、グラフの左上角が B32 付近になるようにドラッグ
- 3) グラフの右下のサイズ変更ハンドルをポイントして、マウスポインタを  にし、N57 付近までドラッグ
- 20.1) 縦(値)軸をポイントして右クリックし、ショートカットメニューから<軸の書式設定(F)>を選ぶ
- 2) 【軸の書式設定】ダイアログボックスが表示されるので、“軸のオプション”の[最小値]で“固定(F)”を選び、右のボックスに「70」と入力して、[閉じる] をクリック
- 3) [レイアウト] タブの  (グラフタイトル) をクリックして、<グラフの上>を選ぶ
- 4) グラフタイトルが表示されるので、「グラフタイトル」の文字を削除して、「上位 5 名スコア推移」と入力
- 5) [レイアウト] タブの  (凡例) をクリックして、<凡例を下に配置>を選ぶ

21. 省略

